

体育における学習意欲に関連する両親の要因

Relationships between children's achievement motivation for learning in physical education and parental factors

西田 保* 青井 洋** 長野 正***
 加藤 富雄**** 西田 紀江*****
 Tamotsu NISHIDA*, Hiroshi AOI**, Tadashi NAGANO***,
 Tomio KATO****, Norie NISHIDA*****

This follow-up study examined the parental factors related to children's achievement motivation for learning in physical education. Subjects were 245 boys and 239 girls at the fifth or sixth school grades. They were asked to respond to all items of the Achievement Motivation in Physical Education Test (AMPET) and the questionnaire related to parent-child relations in sport situations.

In view of the data presented in this study, many significant correlations were obtained between the AMPET and the father's or mother's variables. In the case of boys, especially, fathers showed stronger effects on the children's achievement motivation for learning than mothers. These results were discussed from the viewpoint of social or psychological development of the subjects.

目 的

達成動機の発達や規定因に関する従来の研究によると、生育過程における環境的な要因、特に親の養育態度やそれに伴う感情的な要因を取り上げたものが多く見られている^{1), 4), 6), 11), 13)}。それらの結果は必ずしも一貫しているわけではないが、子どもの高い達成動機は親の自律訓練の仕方(要求的しつけ)やその際に経験する快的な感情などに依存することが明らかにされている。従って、達成動機とかなり近い概念である体育における学習意欲を考えてみた場合、それが育つ背景には良好な親子の関係が存在しているのではないかと考えられる。このよ

うな観点から、西田ら¹⁰⁾は、体育における学習意欲と親子関係との関連性について報告した。しかし、両者の関連性は部分的には認められるもののそれほど明確ではなかった。そして、その理由の1つに、使用した親子関係検査の測定対象とする内容が、運動やスポーツ場面ではなく一般的な日常場面に限定されたものであったことが指摘された。また、これとは別に、従来の達成動機と親子関係に関する研究では、父親よりも母親との関係から調べたものが多かったが⁵⁾、家庭外での社会的な成功や達成と強い関わりを持つ父親の影響力も、かなり認められると思われる。例えば、父親の方が母親よりも息子の達成動機とより強い関係を持っているこ

- * 名古屋大学総合保健体育科学センター
- ** 大津市立堅田小学校
- *** 大津市立唐崎小学校
- **** 大津市立膳所小学校
- ***** 日本福祉大学非常勤講師
- * Research Center of Health, Physical Fitness and Sports, Nagoya University
- ** Katata Elementary School
- *** Karasaki Elementary School
- **** Zeze Elementary School
- ***** Nihon Fukushi University

とを示した研究がある^{2),3)}。

そこで、本研究では、運動やスポーツとの関わりにおける子供と父親・母親との関係が、その子供の体育における学習意欲に影響を与えているという基本的な仮説について再度検討することにした。具体的な分析の観点は、①体育における学習意欲の背景には、良好な親子関係が存在しているのかどうか、②体育における学習意欲には、母親の要因だけでなく父親の要因も関係しているのかどうか、③体育における学習意欲と父親および母親の要因との関連性は、男女によって異なるのかどうかという3点である。

方 法

1. 調査対象者

対象者は、小学校5年生および6年生の男子245名、女子239名の計484名で、いずれも両親が健在の者である。

2. 調査時期

調査は、1990年6月から7月にかけて実施された。

3. 調査内容

(1) 体育における学習意欲

西田^{7),8),9)}によって標準化された体育における学習意欲検査 (AMPET) を用いた。この検査は、質問紙による自己評定尺度であり、児童・生徒の体育における学習意欲の強さを測定するものである。測定する内容は、体育学習への意欲的側面 (学習ストラテジー、困難の克服、学習の規範的態度、運動の有能感、学習の価値) と回避的側面 (緊張性不安、失敗不安) である。検査項目は、全部で計64項目である。各項目への応答は5段階で行われ、「よくあてはまる」に5点、「ややあてはまる」に4点、「どちらともいえない」に3点、「あまりあてはまらない」に2点、「全くあてはまらない」に1点が与えられた (具体的な質問項目は、原文を参照されたい)。

(2) 親子関係

運動やスポーツ場面における親子関係を調べる内容を、これまでの親子関係に関する研究や

検査^{2),3),6),12)}を参考にして以下のように作成した (表1参照)。

① 子供が運動やスポーツをする時の両親の対処の仕方

両親が子供に対処する場面を、運動やスポーツを「教える時」、「子供が成功した時」、「子供が失敗した時」という3つの場面に分けて、それぞれの場面について、従来の親子関係検査を参考にした「支配、服従、受容、拒否、一貫性」といった5つの観点から質問項目を作成した。具体的には、例えば父親の「教え方」を例にとると、「お父さんと一緒に運動やスポーツをする時、あなたのお父さんの教え方は」、厳しく教える (支配)、私の言う通りにさせてくれる (服従)、ほめてくれる (受容)、ほったらかしである (拒否)、その時の気分で教え方が違う (一貫性) といった形式である。それぞれの項目の選択肢は、「いつもそう思う」が3点、「時々そう思う」が2点、「いいえ」が1点の3段階である。質問項目の数は、父親・母親それぞれ30項目の合計60項目である。分析には、各観点 (2項目) の合計点を用いた。

② 子供が両親と運動やスポーツを一緒にする頻度

「お父さん (お母さん) と一緒に運動やスポーツなどの遊びを」という質問に対して、「ほとんどいつもしている」が4点、「よくする方である」が3点、「時々している」が2点、「ほとんどしない」が1点の4段階で評定を求めた。

③ 子供の運動やスポーツに対する両親の援助や激励

子供が行う運動やスポーツに対して、両親の援助や激励がどの程度あるのかをたずねるもので、「お父さん (お母さん) は、私が運動やスポーツをすることについて、励ましてくれたり助けてくれること」が、「よくある」3点、「時々ある」2点、「ほとんどない」1点の3段階で評定させた。

④ 両親が運動やスポーツをする時の子供への示範行動

父親や母親が運動やスポーツをする時に、子供に対してどのような示範行動をとっているの

表1 体育における学習意欲と親子関係に関する変数との相関係数

変数		男子		女子	
		父親	母親	父親	母親
教え方	支配 (厳しく教える 親の言う通りにさせる)	-.038	.148*	-.034	.010
	服従 (やさしくてよく世話をやく 私の言う通りにさせてくれる)	.182**	.051	.254***	.175**
	受容 (ほめてくれる 助けてくれる)	.317***	.208***	.232***	.250***
	拒否 (ほったらかしである 悪いことばかり言う)	-.271***	-.091	-.151*	-.191**
	一貫性 (きまぐれである その時の気分で教え方が違う)	-.085	-.117	-.092	-.106
成功時の対処	支配 (もっと練習しなさいと言う もっと頑張れと言う)	.059	.066	.033	-.032
	服従 (言う事を何でも聞いてくれる ほうびをくれる)	.149*	.113	.137*	.118
	受容 (よく頑張ったとほめてくれる 一緒に喜んでくれる)	.374***	.211***	.245***	.280***
	拒否 (何も言ってくれない 相手にしてくれない)	-.341***	-.137*	-.125	-.216***
	一貫性 (ほめる時と叱る時がある その時の気分で言い方が違う)	-.232***	-.134*	-.109	-.103
失敗時の対処	支配 (ガミガミ叱りつける 言い訳を聞き入れない)	-.020	.000	-.100	-.123
	服従 (私の気持ちを慰めてくれる やさしくしてくれる)	.229***	.207***	.270***	.226***
	受容 (頑張れと励ましてくれる 親切に教えてくれる)	.382***	.301***	.302***	.268***
	拒否 (何も言ってくれない 悪いことばかり言う)	-.292***	-.120	-.163*	-.132*
	一貫性 (叱る時とほめる時がある その時の気分で言い方が違う)	-.132*	.013	-.097	-.092
子供と運動やスポーツを一緒にする頻度		.250***	.091	.211***	.064
運動やスポーツに対する子供への励ましや援助		.285***	.164**	.280***	.316***
子供への示範行動	最後までやり通す 一生懸命頑張る もっと上手になろうとする 失敗してもくじけない	.233***	.310***	.337***	.254***
両親への感情傾向	感謝している 尊敬している 大好き やさしくて思いやりがある	.322***	.188**	.275***	.184**

*.....p<.05 **.....p<.01 ***.....p<.001

かという内容で、「最後までやり通すくらいねばり強い」、「一生懸命頑張る」、「うまくできてももっと上手になろうとする」、「失敗してもくじけない」といった各4項目の質問である。その時の反応を、「いつもそう思う」が3点、「時々そう思う」が2点、「いいえ」が1点の3段階で評定させた。分析は、4項目の合計点で行った。

⑤子供が両親に対して抱いている感情

子供が日頃から父親や母親に対してどのような感情を抱いているのかという内容を、「私のことをよく考えてくれて感謝している」、「よく頑張る人だと尊敬している」、「大好きである」、「やさしくて思いやりがある」の各4項目でたずねた。応答は、「いつもそう思う」3点、「時々そう思う」2点、「いいえ」1点の3段階である。4項目の合計点で分析した。

4. 調査方法

小学校3校計14クラスに調査を依頼し、学級担任を通してクラスごとに実施した。

結 果

本研究では、体育における学習意欲の意欲的側面だけを分析の対象とした。すなわち、AMPETの意欲得点（学習ストラテジー、困難の克服、学習の規範的態度、運動の有能感、学習の価値各下位尺度の合計点）と親子関係に関する父親および母親の変数との相関関係を男女別に求めた。

意欲得点と親子関係に関する変数との相関係数を男女別にしたのが表1である。まず全体の傾向をみると、母親の変数に限らず父親の変数と意欲得点の間にも有意な相関が多く認められている。例えば、男女を合わせた父親の全変数は38であるが、そのうちの27変数が有意な相関であり（ $|r| = .132 \sim .382$ ）、母親の場合には全38変数のうちの21変数が有意な相関を示した（ $|r| = .132 \sim .316$ ）。特に、男女とも父親および母親の変数と意欲得点との間に有意な相関が認められたのは、運動やスポーツを教える時の受容的態度、成功や失敗時の受容的態度、失敗時の服従的態度、子供への励ましや援助、

子供への示範行動、両親に対する感情傾向などの変数であった。

次に、男女別に意欲得点と両親の変数との関連性を比較してみることにする。まず男子においてであるが、男子の意欲得点と両親の変数との間に認められた有意な相関の数は、父親の変数の方が母親の変数よりもやや多く、また、これらの相関係数の値はやや高い傾向にあった。全変数に対する有意な相関の数は、父親の場合は19変数のうちの15変数までが（ $|r| = .132 \sim .382$ ）、母親の場合には19変数のうちの10変数が有意な相関を示した（ $|r| = .134 \sim .310$ ）。これに対して、女子でみられた有意な相関の数は、父親、母親の変数で顕著な差を示さなかった。例えば、父親では19変数のうちの12変数が（ $|r| = .137 \sim .337$ ）、母親の場合は19変数のうちの11変数が有意な相関を示した（ $|r| = .132 \sim .316$ ）。このように、意欲得点と両親の変数との間に認められた有意な相関係数の数は、男子においては父親の変数の方が母親の変数よりも多くみられ、女子においては父親、母親の変数ともほぼ同じくらいであった。

考 察

体育における学習意欲と親子関係に関する変数との関連性を検討するのが本研究の主たる目的であった。その結果は、大きく2つに分けられる。その1つは、男女とも、母親の変数に限らず父親の変数と意欲得点の間にも有意な相関が数多くみられたことである。すなわち、これらの結果は、男女とも、両親の運動やスポーツの教え方が受容的であったり、成功や失敗時に両親から受容的な言葉をかけてもらったり、運動やスポーツをする時に両親から励まされたり、両親が子供に対して達成志向的な示範行動をとったり、子供が両親に対して好意的な感情を抱いている場合に、体育における学習意欲が高くなっていくことを示唆している。小学校5、6年生あたりになると、母親だけでなく父親の要因も体育における学習意欲に影響を与えることが明らかになったと考えられる。

その原因として以下のようなことが考えられる。発達心理学的な観点からすると、子供の達成動機や意欲に關与する程度の父親と母親の割合は、子供の成長につれて変化していくと考えられる。例えば、幼児期や小学校低学年期では、身辺的な生活習慣の形成および自立、初歩的な社会的生活の自立、学習習慣の形成などが主な発達課題であり、それらの達成には父親よりも母親の方が強く關与していることから、この時期の体育における学習意欲には父親よりも母親の方が強く關係していると思われる。一方、青年期においては、社会的な自立、自主的・主体的な学習態度の確立、自我の確立などが重要な発達課題となり、その達成には父親も母親に劣らず關与するようになってくることから^{2),3)}、この時期の体育における学習意欲には、父親も母親と同等あるいは母親以上に關係してくると考えられる。これらのことから、本研究で男女とも体育における学習意欲に父親の影響が母親の影響と同等（あるいはそれ以上）に認められたのは、本研究対象者が児童期から青年期への移行期にあったために、児童期での母親と青年期での父親の影響とが重複して体育における学習意欲に影響したからであろうと推察される。

第2の結果は、男子における意欲得点と両親の変数との間にみられた有意な相関の数は、父親の変数の方が母親の変数よりも多くみられそれらの相関係数の値がやや高かったこと、一方、女子でみられた有意な相関の数は、父親、母親の変数ともほぼ同じくらいであったという点である。社会的あるいは心理的発達の観点からすれば、小学校も高学年あたりになると、人格上の男女差が顕著になり始めるとともに、男子においては家庭外の社会との関わりを強く持つ父親との關係が強化され始め、女子においては男子同様に父親に影響される部分があるものの母親との關係がより密接になってくる時期であると思われる。本研究で体育における学習意欲と両親の変数との関連性にわずかながらも性差が認められたのは、このような観点が影響していたのではないかと推察される。

(1991年11月18日受付)

〈付 記〉

本研究の資料収集にあたっては、各学校の先生方をはじめ生徒の皆さんに快くご協力頂きました。ここに深甚の謝意を表します。

文 献

- 1) 林 保・山内 郁「子どもの達成動機と母親の自律訓練との關係」京都学芸大学紀要, 25:31-40, 1964.
- 2) 今泉信人「大学生男子の達成動機とその父親像・母親像との關係」広島大学教育学部紀要第1部, 32:197-206, 1984.
- 3) 今泉信人・龍 祐吉「子どもの達成動機に關連する父親要因と母親要因に關する研究」広島大学教育学部紀要第1部, 33:159-169, 1985.
- 4) McClelland, D.C., "The achieving society," Van Nostrand, 1961.
- 5) 宮本美沙子 (編), 達成動機の心理学, 金子書房, 1979. Pp.206.
- 6) 宮本美沙子・岡野和子・依田 新「達成動機の育成とその規定因」日本教育心理学会第10回総会宿題報告, 61-88, 1968.
- 7) 西田 保「体育における学習意欲の尺度構成と類型化の検討」総合保健体育科学, 10-1:47-60, 1987.
- 8) Nishida, T., "Reliability and factor structure of the Achievement Motivation in Physical Education Test," Journal of Sport and Exercise Psychology, 10: 418-430, 1988.
- 9) 西田 保「体育における学習意欲検査 (AMPE T) の標準化に關する研究—達成動機づけ論的アプローチ—」体育学研究, 34-1:45-62, 1989.
- 10) 西田・保・天野彰夫・西田紀江「体育における学習意欲と親子關係との関連性」総合保健体育科学, 13-1:1-9, 1990.
- 11) Smith, C.P., "The origin and expression of achievement-related motives in children," In C.P. Smith (Ed.) Achievement-related motives in children, New York : Russel Sage Foundation, 102 - 150, 1969.
- 12) 田中教育研究所編, TK式診断的新親子關係検査, 田研出版, 1972.
- 13) Winterbottom, M.R., "The relation of need for achievement to learning experiences in independence and mastery," In J. W. Atkinson (Ed.) Motives in fantasy, action, and society, Van Nostrand, 453 - 478, 1958.

